

平成 28（2016）年度
廿日市市との包括的連携協定に伴う
地域連携センター活動報告書

山陽女子短期大学

地域連携センター

平成 28（2016）年度地域連携センター活動報告によせて

山陽女子短期大学 地域連携センター長

丸川 浩

山陽女子短期大学に、広島県内の大学・短期大学に先駆けて、生涯学習センターが設置されたのは、平成元（1989）年のことです。平成 24（2012）年には、機能をさらに強化し、活動領域を広げた組織として、地域連携センターが設置されました。また、その翌年の平成 25（2013）年には、廿日市市との間に「包括的連携協力に関する協定」が結ばれました。

こうした経緯で設置された地域連携センターは、現在、生涯学習部門、産学連携部門、自治会部門が連携を取りながら、事業の運営を行っております。事業につきましては、本学の特性と地域からの要請を踏まえて、「1. 食と健康の増進」、「2. 教育・文化・生涯教育の推進」、「3. 地域の活性化・まちづくりの推進」、「4. 人材の育成」、「5. 環境活動の推進」、「6. その他の事業」の 6 分野で展開しております。また、事業を推進していくためには学生の参加協力が不可欠であることから、学内にボランティア委員会を設置し、学生のボランティア活動のサポートに当たっております。

廿日市市との協定締結の 4 年目に当たる本年度は、35 事業に関わりました（そのうち、実施あるいは参加の要請がなかった事業もあります）。実施・参加した事業の詳細については、本報告書に掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

本学地域連携センターの活動は、各方面のご協力によって、漸く軌道に乗りつつあります。もちろん、たくさんの課題を抱えていることも事実です。廿日市市の各部署、佐方自治会の方々と協議を重ねながら、さらなる発展を目指す所存でございます。

今後とも、山陽女子短期大学地域連携センターの活動に対して、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年度 山陽女子短期大学地域連携センター事業

1. 食と健康の増進 実施時期に※がついている事業は、要請がなかった等の理由によって実施あるいは参加しなかった事業

整理番号	事項	新規/継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
1-1	健康食品の利用に関する相談会	継続	※		恵野村	
1-2	災害時の栄養と食事に関する講座	継続	※	廿日市市福祉保健部 社会課	中東	
1-3	保健指導関連事業	継続	11月	五師会	中東	
1-4	保健指導関連事業 食事診断を行う	新規	10月	佐方市民センター	中東	センター祭りにて 食事診断(SATシステム)を行う

2. 教育・文化・生涯教育の推進

整理番号	事項	新規/継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
2-1	生涯学習フェスティバル	継続	11月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	津村	SAT、スイーツ販売
2-2	山陽女子短期大学公開講座	継続	5月～6月 12月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	丸川	前期：統一テーマ「健康の〈常識〉を考える」で、5回開催 後期：別テーマで、単発の講座を2回開催
2-3	七福大学	継続	7月	佐方市民センター	丸川	講師：谷口薫
2-4	パソコン基本操作	継続	3月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	章	3月17日に実施予定。
2-5	親と子の野菜教室	継続	5月～1月	JA 佐伯中央	鈴木	5回実施

3. 地域の活性化・まちづくりの推進

整理番号	事項	新規/継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
3-1	街道まつり	継続	※	廿日市市郷土文化研究会	岡崎	
3-2	「大新の桶すし」の再復活	継続	11月	廿日市商工会議所婦人部 廿日市市郷土文化研究会	津村 谷口薫	
3-3	まちづくり交流会 in はつかいち	継続	※	廿日市市協同推進課	岡崎	
3-4	県内産食材を使用した焼き菓子販売	継続	※	JA ふれあい市場廿日市	岡崎	
佐方1	れんげ祭り	継続	4月	佐方自治会	石永	全学募集 食べ物販売等
佐方2	すえひろ会	継続	7月	佐方自治会	平林	食物栄養学科2年生
佐方3	佐方夜市夏祭り	継続	7月	佐方中央商店街	岡崎	物販販売
佐方4	佐方地区敬老会	継続	9月	佐方自治会	未定	全学募集
佐方5	通学合宿	継続	10月	佐方自治会	平林	食物栄養科 買い物・料理作りのサポート)
佐方6	市民センター祭り	継続	10月	佐方市民センター	石永	全学募集 物販販売と運営スタッフ 8月に募集予定
佐方7	地域花いっぱいうんどう	継続	※	佐方自治会	石永	全学募集 佐方地区
佐方8	リトルシェフ	継続	11月	佐方市民センター	下地 西庄	食物栄養学科
佐方9	子供餅つき大会	継続	11月	佐方自治会	石永	全学募集 八幡神社境内
佐方10	佐方地区とんど祭り	継続	1月	佐方自治会	石永	全学募集 佐方小学校校庭
佐方11	廿日市市民センターまつり	新規	2月	廿日市市民センター	谷口薫	

4. 人材の育成

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
4-1	インターンシップの推進	継続	8月	廿日市市人事課	章 鈴木	
4-2	診療情報管理士・医療事務員スキルアップ研修	継続	4月～2月		有吉	6回実施
4-3	医療機関機能別医療費説明会	新規	12月		有吉	
4-4	ゼロからはじめる癌登録	継続	※		有吉	

5. 環境活動の推進

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
5-1	はつかいち環境フェスタ	継続	10月	はつかいち環境フェスタ実行委員会	岡崎	
5-2	手指衛生等の出前授業	継続	※	廿日市教育指導課	林田	
5-3	台所用品の衛生度チェック	継続	※		林田	
5-4	花粉飛散調査	継続	3月～6月		林田 岡村	

6. その他の事業

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
6-1	廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略	継続	※	廿日市市分権政策経営政策課	谷 口 (薫)	廿日市市の事業参加の要請がなかった。
6-2	ピンクリボン	継続	10月		中東	
6-3	エイズ啓発活動	継続	6月 12月	広島県。広島市 (一社) 広島県臨床検査技師会	石河	
6-4	ひろしまフードフェステバル	継続	10月	JA 広島	西庄	

地域貢献・地域連携活動報告

1 - 3

活動名	保健指導関連事業：五師会
目的または趣旨	廿日市市住民に楽しみながら医療・保健・福祉について体験し、学ぶことができる催しに参加する。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市社会福祉協議会 経緯：五師会のメンバーとして、あいプラザまつりに学生と一緒に参加していただきたいとの要望があった。
年・日時	平成 28 年 11 月 8 日
活動拠点	廿日市市総合健康福祉センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 2名
活動内容	市民に健康に関するクイズを解いていただく。参加賞として、業者から提供していただいたお土産をわたす。答を確認し、違っている所は解説をする。男性 34 人、女性 158 人計 192 名の方がクイズに参加し、盛況であった。10 問中、全問正解者が 7.3%、9 問正解者が 20.8%、8 問正解者が 37%と半数以上の方が正解をしたので、よかった。
反省・コメント	難しい問題でもいけないし、また簡単でもいけないのでいつも悩む。子どもから高齢者までと幅広い年齢層に対応することが必要である。
添付書類	(有) (無)

地域貢献・地域連携活動報告

1 - 4

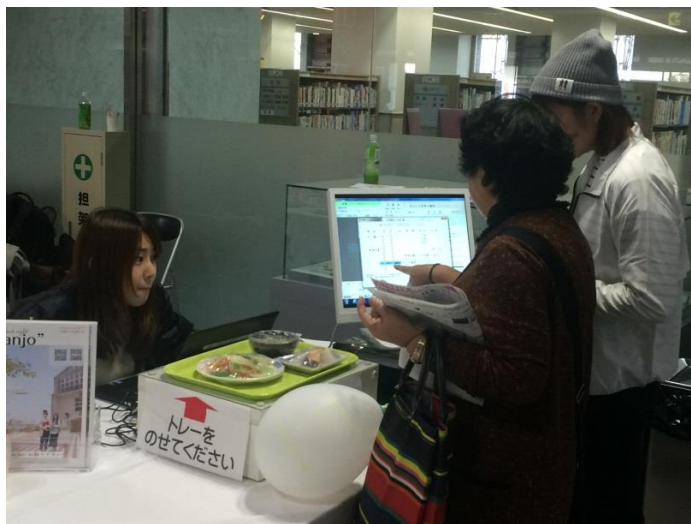
活動名	保健指導関連事業：佐方市民センターまつり
目的または趣旨	佐方地区の住民に、SAT システムを使って日常の食事のバランスや適切な量を摂取しているかを、楽しみながら自分の食生活を振り返っていただく。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方市民センター 経緯：特定保健指導の一環として、肥満防止に役立てるよう廿日市市から依頼を受けた。
年・日時	平成 28 年 10 月 15 日
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理 1 年 3 名 栄養管理 2 年 2 名
活動内容	食事のフードモデルを使い、前日食べたもの、または食べようと思うものを選んで、SAT の器械の上に乗せるとバランスや栄養量が表示される。それについて簡単なコメントをいい、悪ければ、何を足すとよいかなどのアドバイスを行う。遊び感覚で選び、選んだ食事の栄養量などを知り、自分がバランスよく食べているかなどを学ぶことができる。
反省・コメント	今回は、データをプリントしなかったので、行列ができて早く回転することができたが、結果がほしい人もいたようだった。
添付書類	(有) 無)



地域貢献・地域連携活動報告

2 - 1

活動名	第 26 回廿日市市生涯学習フェスティバル
目的または趣旨	フードモデルとパソコンによる食事バランスチェック
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：廿日市市、廿日市市教育委員会、廿日市市生涯学習係 経緯： 2010 年から毎年参加している。
年・日時～年・日時	2016 年 11 月 6 日 10 - 15 時
活動拠点	廿日市市庁舎
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★津村なみえ 食物栄養学科 1 年生 4 名
活動内容	食育 SAT システムによる食事バランスチェックを行った。バランスチェック結果のプリントアウトと、学生による簡単な解説をその場で立っただけで行った。昨年と同じ場所で、混雑することも無く、スムーズに行うことができた。途中、イベントステージで出展 PR の時間をもらった。
反省・コメント	主催団体からの要望である、『1 団体 1 テント』（スペース）の原則に則り、昨年よりも規模を縮小した。昨年まで行っていたスイーツの販売とバランスチェックの解説場所を無くしたためか、例年よりも本学ブースへの来場者数は少なかった。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

2 - 2

活動名	第 36 回 山陽女子短期大学公開講座（2016 年度前期）
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
開催期間	2016 年 5 月 28 日（土）～6 月 25 日（土） 毎回 13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
運営者	全体の責任者：★丸川地域連携センター長 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	「健康の＜常識＞を考える」を統一テーマとし、全 5 回を、本学教員が担当して行われた。 一般参加応募者数：69 名
反省・コメント	講座終了時に行ったアンケート結果では、76%の受講者が「満足」「やや満足」と回答しているので、概ね好評であったと考えられる。今回は、講義開始・終了時間について質問項目に入れたが、「1 時 30 分～3 時」と「どの時間地でもよい」を合わせると 73%になり、今後も、現状どおりの時間帯で開始・終了する方がよいと思われる。
添付書類	（有 無）

第 36 回 山陽女子短期大学公開講座（2016 年度前期）



講座の様子



閉講式の様子

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 2

活動名	第 36 回 山陽女子短期大学公開講座（2016 年度後期）
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	第 1 回 2016 年 11 月 26 日（土） 13:30～15:00 第 2 回 2016 年 12 月 10 日（土） 13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には ★） 学生（所属・学年・ 人数）	全体の責任者：丸川 浩 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	第 1 回「病院の役割を知ろう！～地域で“安心生活”をサポート～」 をテーマとして、地域の病院から医療事務関係の講師を招いて開催し た。 第 2 回「食品添加物のこと、知っていますか？～加工食品の表示か ら学ぶ～」をテーマとして、本学の岡崎尚教授が講師となって開催し た。 一般参加応募者数：第 1 回 44 名 第 2 回 55 名
反省・コメント	今年度から、公開講座（後期）は、単独のテーマで、2 回の開催とな った。このやり方について、アンケート結果では、「今回のように 2 回がよい」が 43%と最も多く、継続的に、この形で行っても問題が ないことが分かった。
添付書類	（有 無）

第 35 回 山陽女子短期大学公開講座（2015 年度後期）



講座の様子（第 1 回）



講座の様子（第 2 回）

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 3

活動名	佐方七福大学 高齢者学級
目的または趣旨	佐方地区で開催されている佐方七福大学の方々に、災害時における注意点を再認識していただく。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方市民センター 経緯：高齢者学級に臨床検査学科としてお話しできる身近な問題について、講演の依頼を受けた。
年・日時	平成 28 年 7 月 21 日
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★谷口 薫
活動内容	<p>熊本大地震、広島市大雨災害時における避難所で起きた事例を下に、臨床検査学科血液学に関連した題材として、「災害とエコノミークラス症候群」について講演した。</p> <p>私たちの身の回りで、いつ起きるか分からない災害時に、最も多発し尚且つ人の生命にも及ぼしかねないエコノミークラス症候群を、出来るだけ写真を多く使用したパワーポイントを使って、このような症状の起こる生体内の機序、原因、予防策などを、分かりやすく講義した。</p>
反省・コメント	何回か、シリーズでさせていただいたら、もっと分かりやすかった。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> (無)

地域貢献・地域連携活動報告

2-4

活動名	パソコンの操作と活用 ～ハガキを作る～
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および共催の経緯	廿日市市教育委員会・生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	2017年3月17日（金）10:00～12:00
活動拠点	山陽女子短期大学
運営	全体の責任者：章 情報センター長 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	高齢者を対象として、パソコンの入門講座を行った。講師は、本学章教授で、学生アシスタント5名、教職員3名を配置し、参加者もパソコンを操作しながら受講した。 一般参加応募者数：45名（抽選により35名を選抜した）
反省・コメント	昨年の反省をもとに、早くから、本学地域連携センター委員、講師と事前の打ち合わせを行った結果、アンケート結果は、前回、前々回よりも受講者の満足度が向上した。学生アシスタントも、前回よりも増やしたことも好結果につながったと考えられる。受講生の習熟度に差があること、時間が足りないことなどの問題点はあるが、今後も継続する予定である。
添付書類	（有 無）

パソコン講座



講座の様子



講座の様子

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 5

活動名	JA 佐伯中央企画「第 9 回親と子の野菜スクール」
目的または趣旨	野菜の植え付けから栽培、収穫、調理までの一連の過程を通じ、「地産地消」「農業の魅力」を体験する。
共催団体名	佐伯中央農業協同組合
期日（期間）	①平成 28 年 5 月 14 日（土） ②平成 28 年 7 月 2 日（土） ③平成 28 年 9 月 10 日（土） ④平成 28 年 11 月 26 日（土） ⑤平成 29 年 1 月 21 日（土）
活動拠点	①②③④廿日市市津田 3231-1「ふれあい農園」 ②⑤廿日市市津田 4218「さいき文化センター」
参加者	食物栄養学科生 8 名 ①上釜優希、藤岡郁美、右佐林茄衣、尾久田祐利、室山夏実、益優沙 ②尾久田祐利、室山夏実 ③上釜優希、藤岡郁美、右佐林茄衣、尾久田祐利、室山夏実、益優沙 ④室山夏実、森山華江 ⑤藤岡郁美、尾久田祐利、田窪好、益優沙 ○引率：鈴木
活動内容	毎回 JA 佐伯中央が管理する「ふれあい農園」まで足を運び、5 月～翌 1 月まで全 5 回にわたり、「地産地消」「農業体験」をテーマに各種野菜の植え付けから栽培、収穫、調理までの一連の作業を体験した。じゃがいも、大根、白菜、かぼちゃ、大長なす、あずきなど地元農家の協力を得ながら、さらには本企画に参加する地元の家族との交流を持ちながら食農体験ができた。企画最終日には「調理編」と称し、本学学生が調理の講師となって「かぼちゃご飯」「白菜ロールと大根のポトフ」「はつかいちご大福」づくりのデモ、および実地指導も行い、日頃の学習の成果を発揮する時間が得られた。学生らには全 5 回を通じ、教室内では決して経験することのできない貴重な食農・食育経験の場になったのではないかとと思われる。
反省・コメント等	・この度の参加者は、所属コースが異なる編成となり、連絡・打合せに面倒があった。 ・最終日（1/21）の調理編では、十分な試作時間もない中、参加学生はうまくデモ・実地指導をこなし、参加した子供たちの調理を補助していた。
添付資料	無

地域貢献・地域連携活動報告

3-2

活動名	「桶寿司」講習会
目的または趣旨	廿日市市に伝わる桶寿司の歴史を知り、復活した桶寿司のつくり方を学ぶ。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市郷土文化研究会 経緯：郷土文化研究会正木様から重田先生に依頼があり、桶寿司文化の継承のため、2012年から毎年開催している。
年・日時～年・日時	2016年11月26日9～13時
活動拠点	本学集団調理実習室
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員 ★津村なみえ 学生 食物栄養学科1・2年生6名
活動内容	郷土文化研究会、廿日市中央市民センター様（合計5名）ご協力のもと、廿日市市に伝わる「桶寿司」のつくり方を教えていただきながら作った。調理の合間によもぎ餅も作った。今年度は、日本三大芋煮の一つ「津和野の芋煮」も調理した。 桶寿司とは何か、桶寿司を復活させたときのいきさつなどを聞き、談笑しながら出来上がった桶寿司をいただいた。
反省・コメント	近年12月初めに実施しているが、学生の都合に合わせて11月に実施したところ、廿日市市商工会議所の行事と重なったため、いつもご協力いただいている商工会議所女性会の皆さまに手伝っていただくことができなかった。女性会の方の中には実際にレシピづくりに奔走されたかたもいらっしゃるため、来年度は、出来るだけ12月初旬に実施したい。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

佐方1

活動名	「第14回れんげ祭り in 佐方」(2016年度)
目的または趣旨	佐方自治会行事へのボランティア活動として参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方アイラブ自治会 コミュニティ事業局 経緯：昨年度からの継続
年・日時~年・日時	クッキー作り 4月22日まで(食物栄養の学生) 当日：2015年4月29日水曜日 8:30-15:30時
活動拠点	西広島バイパスの佐方出口の山手のたんぼ
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	教員：★石永、松本、西庄(クッキー作成) クッキー作り：食物栄養2年10名 1年4名 計14名 当日人間生活：1年2名 2年10名、食物栄養：1年15名 2年5名、 臨床検査：1年25名 2年13名 3年1名 計71名
活動内容	クッキー作り：3月末から試行錯誤を重ね、れんげの蜂蜜入りでバター不使用のクッキーを450個作成した。1袋3個入りで販売。 当日：昨年より11名多く71名の参加となりました。かなり多かったので中学生の仕事を手伝うのではないかと心配しましたが、良く連携を取りながら、食品販売コーナー等を担当してくれていました。今回は混乱が無いように、担当コーナーを事前に割り振っていたのでスムーズにそれぞれの持ち場で活躍してくれていました。ボランティア参加者が昨年以上だったことに、自治会の方からは、賑わって嬉しいことだと大変喜んでいただきました。他地域からの来客の方が学生さん達よく頑張っておられますねと驚いておられました。学生が作ったクッキーも好評で完売しました。前日の雨でぬかるみの中での作業となりましたが、テントの後片付までを短大生全員が残りしっかり行いました。
反省・コメント (学生の感想も含めて)	ぬかるみでの作業になるように、靴や服装について注意を喚起していたが徹底していなかった。
添付書類	(有 無)



第14回れんげ祭りin佐方



4月24日(日)に開催

今年で十四年目となる、佐方の一大イベントのれんげ祭りが、バイパス上の田んぼで、約四、五〇〇名の来場者で盛り上がりました。

今年、廿日市市主催のアジアトライアスロンが二十九日から開催されるために、一週間早めました。昨年は最高の天気でしたが、今年は天気予報では最悪でしたが、雨マークが変わり素晴らしい天気となりました。ですが、前に降った雨で、特に売店の周りには来場者で大変ぬかるんでしまいました。来場者の方は、特に親子連れの方が多く、れんげ畑の中で楽しんでおられました。また佐方小学校・廿日市中学校・山陽女子短大の多くの生徒のボランティア参加がありました。生徒の皆様の元気なゴミ拾い・ポン菓子や野草の天ぷらなどを買って下さいの声など、頼もしい姿に大感激です。

地域の子供達が自然と触れ合い、自然の味を親しむ体験をさせることにより、子供達の健全な育成を図ることが、この祭りの趣旨になっております。この祭りに参加頂いた佐方小学校の教頭先生から感想文を頂きました。

佐方小学校 教頭 池田 賀子

昨年度から「れんげ祭り」の話題は学校でも度々出ていたのですが、私の中にインパクトされた情報は「おいしいものがいっぱい」「長靴は

必須」の二つでした。この度、初めて参加させていたでいて、両方とも大いに納得、楽しませていただきました。

本校児童も、ボランティアとして五十七人が参加、遊びに来た児童も含めると、過半数の子どもたちがお世話になりました。

今、教育の現場では、体験活動の重要性がさかんに言われていますが、田んぼの中をぐちゃぐちゃになりながら歩いたこと、一面のれんげ畑、草と土と風の匂い、どれも子どもたちの五感に響く体験になったことと思います。

準備や後片付けの大変さを垣間見て、頭の下がる思いですが、地域の皆さんにかけていただいたのは「教頭先生、参加してみようだった？楽しんでくれたら一番うれしいんよ。」という言葉でした。誰かのためにといいお気持ちを感じ、感激いたしました。

来年の「れんげ祭り」も楽しみにさせていただきます。ありがとうございます。



かきあげ天ぷらのお店



餅つきの周辺の様子

この祭りに来て頂いた皆様大変有難うございました。また、事前準備から、後片付けまでご協力頂いた方々のお陰で素晴らしい催しが出来ました。心からお礼申し上げます。

れんげ祭り実行委員会

地域貢献・市域連携活動報告書

佐方2

活動名	平成 28 年度「すえひろ会」の食事会 (佐方自治会行事への積極的参加)
目的又は趣旨	廿日市市佐方地区では、70 歳以上の独り暮らしの高齢者へ毎月 1 回お弁当を提供されている。 本学の給食管理実習の時間に高齢者への食事を提供することで、地域との連携をはかっている。
協賛団体名および共賛の経緯	廿日市市教育委員会・廿日市市福祉協議会・アイラブ自治会 連絡責任者 福祉事業局長 生川 佳代子様
年・日時	平成 28 年 7 月 22 日(金)
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員(責任者★) 学生(所属・学年・人数)	すえひろ会 31名・アイラブ自治会 2名 廿日市市教育委員会 2名・廿日市市福祉協議会 2名 計 37名 担当教員 平林 眞弓 濱本 沙織 参加教員 学長・副学長・その他教員 7名 学生 食物栄養学科 栄養管理コース 2年生 33名 合計 79名
活動内容	7月22日(金) 11:45 大学の送迎バスですえひろ会の皆様が到着 12:00 学生・教員と一緒に歓談をしながらの食事会 13:00 大学の送迎バスで帰途に着く。 食事の献立 ・散らし寿司・若鶏のから揚げ・なすの田楽・かぼちゃの煮つけ ・そうめん汁・フルーツバスケット
反省・コメント	すえひろ会の方々のテーブルには学生・教員が同席して和やかな食事会を行うことができました。すえひろ会の皆様にも喜んでいただき、学生にとっても良い経験となりました。卒後の栄養士の仕事においてもこの経験が生かし、がんばってほしいと考えます。
添付書類	有

2016.08.03 **新着**

すえひろ会の方と昼食会 (2016年7月)

7月22日、本学ご近所にお住まいで、70歳以上で一人暮らしの方々31名を昼食会にご招待しました。会食の準備の様子をご紹介します。



管理コース2年生がフランスを考えた献立を調理・提供しました。



茄子はきれいな色を残しながら揚げ、



野菜は3種のシンクを使ってしっかり洗い、



先生にも確認してもらいながら、寿司酢を合わせます。



食べやすい大きさに野菜を切りながら、食材を切ります。



きれいに盛り付け、本日のお食事です。



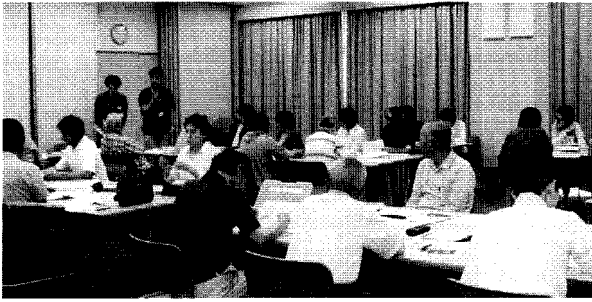
避難行動要支援者 支援制度への協力を

万が一災害が発生した際などに、避難に不安のある障がいを持った方や高齢者など情報を市に登録、その情報に基づき避難をサポートしていただく支援者を決め災害に備える仕組みを避難行動要支援者支援制度といいます。

佐方アイラブ自治会は、支援団体としての協定を廿日市市と結び活動を進めています。

五月二十二日(日)佐方市民センターにおいて避難行動要支援者支援制度の説明会を、廿日市市と佐方アイラブ自治会が連携し、町内会長、民生委員児童委員に対し行いました。

市に登録された要支援者数は、四百四十八人で、八月末を目標に個別計画書の内容の聞き取り作業



を現在進めています。

次に各要支援者の避難をサポートする支援者を十二月末目標に決めるスケジュールを確認しました。

各町内会とも高齢化・少子化が進んでいるため支援者を募ることに課題はあると思いますが、制度の目的をご理解いただきご支援、ご協力をお願いします。

市への登録、支援者の決定、個別プランの作成が済みましたら、要支援者と支援者の信頼関係づくりのため避難訓練等を行い、万が一の災害に備えたいと思います。

安心安全事業局



すえひろ会は、七十歳以上の一人暮らしの人を対象に、月一回、偶数月は会食、奇数月は配食活動をしています。

七月二十二日(金)と八月九日(火)にそれぞれ開催しました。

七月二十二日は山陽女子短期大学の地域貢献活動の一環として、毎年の恒例行事となってきた会食でした。

食のプロを目指す、食物栄養学科の学生のみなさんが、高齢者のみなさんのために、栄養のバランスが取れた食べやすいメニューを考え、調理された料理が用

意されていま

ました。

そんな料理を、普段はふれあう機会の少ない学生のみなさんと一緒に、お食事をしたがら、料理の説明などを受けました。

地域の皆



さんからは「とてもおいしかったよ。」「来年も来れるように元気でね。」「という言葉があり、学生さんからは「キレイに食べてもらってありがとうございます。」「と各テーブルで楽しそうな会話が弾んでいました。

今回で五回目になるこの会食会は、学生の皆さんに佐方地域の活動について知ってもらおうよい機会になったと思います。

八月九日は佐方市民センターで、佐方小学校の児童とで会食会を行いました。

この日のメニューは、ハヤシライス・ミルクスープ・ツナサラダ・すいかでした。料理は調理ボランティアと小学生が一緒に作り、小学生からは「お肉を切るのが大変だった」「おいしくできて良かった」などの声が聞かれました。すえひろ会のメンバーからは「おいしいね」「あ

りがとね」などお礼の言葉がありました。各テーブルでたくさんの笑い声が聞かえ、皆が、おいしい料理と会話を楽しみました。

後半は、小学生が合唱を披露し、「海」を歌う時には、すえひろ会のメンバーも一緒に合唱しました。

また、小学生が先生になり、折紙で風車を作りました。はじめは緊張していた小学生たちも最後はみんな笑顔で、すえひろ会のメンバーとふれあっていました。参加者は小学生十名、すえひろ会二十名、オリーブの会十四名でした。暑い中、参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

これからもこのようなつながりを大切にしながら、高齢者の方々に楽しみにしていただくけるよう、これらの取り組みを続けていきたいと思

いますので、自治会のみなさまにいろいろな形でご協力いただき

たいと思います。

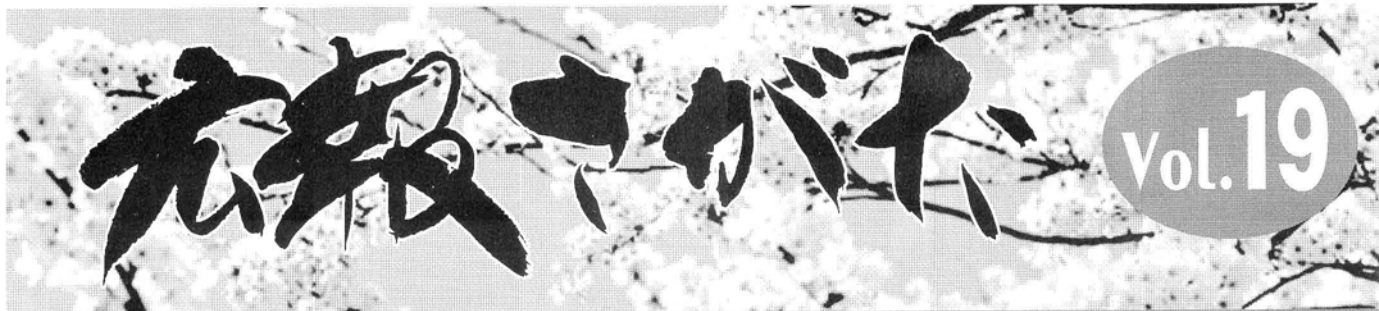


住民福祉事業局

地域貢献・地域連携活動報告

佐方4

活動名	地域連携事業：佐方地区敬老会
目的または趣旨	佐方地区にて開催される敬老会に人手がいるため、また地域の方との交流を図るために参加
共催団体名および共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：地域連携活動として、佐方自治会と協議し昨年と同様に、敬老会の催しにボランティアとして協力することになった。 スタッフとして、人間生活学科、食物栄養学科、臨床検査学科の学生が担当する。
年・日時	平成28年9月19日(9月18日前日準備有り)
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★西 一美 18日 人間生活学科2名 食物栄養学科4名 臨床検査学科5名 19日 人間生活学科1名 食物栄養学科5名 臨床検査学科6名
活動内容	配布のお土産を流れ作業で、袋に詰めていき、段ボールの中およびテーブルに並べる。7名が会場案内係り、3名アトラクションの呼出し係り、2名が控室係であった。 小中学生が敬老会に出席されるご老人を入り口までの案内、それを受けて会場の席まで、できるだけつめて案内する。会開始後は、お年寄りを見守る役を短大生が行なった。来場者に明るく挨拶し、声かけを行った。 会が終了後、来場者のお見送りを並んで行う。 後片付けで、椅子の収納、床掃除などを行う。
反省・コメント	二日間通してボランティアに参加してくれた学生が多かったことで自治会の担当者と連携が取りやすかった。自分から進んで指示をもらう学生も多く、自治会の評価は高かった。
添付書類	(有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>)

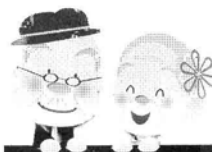


〒738-0001 広島県廿日市市佐方1丁目4-28 TEL 0829-32-5049 FAX 0829-32-5073
<http://members.fch.ne.jp/hatsukaichi.city.sagatacc/>

(年4回発行・季刊)

発行 佐方アイラブ自治会 広報部

九月十九日の敬老の日、佐方市民センターで平成二十八年度佐方地区敬老会を開催しました。
 今年は、参加者はボランティアさんたちも含めて六百十三名の参加がありました。そのうち対象者は二百五十八人と去年と比べ二十六人増えました。参加された人はみなさんお元気でした。
 会場にお越しになられたみなさんは、受付の民生委員とあいさつを交わされた後、佐



平成28年度
佐方地区敬老会



方小学校の児童、廿日市中学校の生徒、山陽女子短大の学生がエスコートしました。
 式典では、来賓の眞野勝弘市長、新田茂美市議会議員が、みなさまに長寿のご祝辞を述べられました。
 今回のアトラクションは、佐方獅子舞、佐方保育園児の歌と踊り、佐方小学校児童の演劇、フラダンスや、日本舞踊など演舞、合唱団の歌と盛り沢山の内容でした。
 中でも廿日市中学校は、今回、吹奏楽部の演奏を披露し



年齢者までのさまざまな年齢層による地域の皆さんの心が一つとなつた時間が過ぎていきました。

感じて素晴らしい作品の展示や、日頃の練習の成果を存分に発揮されたステージの発表に、また、バザーなどに、各クラブさん、アイラブ自治会、地域の皆様方に加え、佐方小学校の児童や先生、山陽女子短大の皆さんに参加していた、幼児、小学生、高齢者までのさまざまな年齢層による地域の皆さんの心が一つとなつた時間が過ぎ

市民センターまつり
 十月十五日 (土)、秋晴れの天候の下で、多くの皆様にお越しいただき、今年のお楽しみ「であい、ふれあい、学びあい」のもとに、第三十六回佐方市民センターまつりが開催されました。
 一つ一つに込められた思いを感じる素晴らしい作品の展示や、日頃の練習の成果を存分に発揮されたステージの発表に、また、バザーなどに、各クラブさん、アイラブ自治会、地域の皆様方に加え、佐方小学校の児童や先生、山陽女子短大の皆さんに参加していた、幼児、小学生、高齢者までのさまざまな年齢層による地域の皆さんの心が一つとなつた時間が過ぎ

ていただき、素晴らしい音色を奏でていました。佐方地区敬老会実行委員会および大勢のボランティアのみなさんは、地域のみなさんがいつまでも

これらもひとえに、近隣の皆様や、準備から片付け、駐車場の管理等、ご協力いただいたアイラブ自治会の皆様、各クラブの皆様のおかげと感謝申し上げます。
 今後とも、市民センターまつりは、地域も学校もつながった絆づくりにふさわしい笑顔が一杯の地域のまつり的な存在となるよう、一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。
 アイラブ自治会会長 重村泰夫
 佐方市民センターまつり
 実行委員長 大草祥威



元気で長生きしていただくことを願っておりますので、来年もまた元気にご参加いただきたいと思っております。
 住民福祉事業局

平成 28 年度 地域貢献・地域連携活動報告

佐方 5

活動名	佐方地区通学合宿ボランティア（学校支援ボランティア事業）
目的または趣旨	子どもたちが学校に通いながら地域の施設を利用して、短時間の集団死活の中で家事などの体験活動を行うことで、自立心を高めることを目的とする。さらに、保護者や地域にとっても、「地域の子は地域が育む」ことを目指して自治会や保護者のネットワークを広げる。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	主催：佐方地区自治会、 後援：廿日市市教育委員会、廿日市市立佐方小学校 経緯： 本学食物栄養学科より佐方アイラブ自治会へ学生ボランティアの打診をし、伊藤様より依頼があった。 経緯等は別紙 1（佐方地区通学合宿詳細内容（H27 年度）参照。
年・日時～年・日時	2016 年 10/ 6 (木) 15:00 佐方小学校にて、合宿参加児童、佐方地区見守り隊スタッフと学生との顔合わせ、打ち合わせ 実施日：10 月 16 日（日）～17 日（月）
活動拠点	佐方西集会所、佐方 4 丁目集会所、縁側サロン
参加者 教員（責任者） 学生（所属・学年・人数）	連絡窓口：平林 食物栄養学科栄養管理コース学生 1 年生 6 名 （合宿所 3 か所に 2 名ずつ分かれる）
活動内容	2016/10/ 16（日）合宿当日の夕食補助（学生 12:30～20:00） 2016/10/ 17（月）合宿当日の夕食補助（学生 16:30～20:00）
反省・コメント （学生の感想も含めて）	学生は通学合宿のボランティアの主な内容が食事作りの補助ということもあり楽しんでいる様子であった。短期大学の学生と子どもたち、地域の見守り隊の方々との交流も深まり、来年度へ向けてネットワークを広げていける活動であると思われた。 学生の感想 始めは少し緊張していましたが、伊藤さんたちに親切に指導していただき、安心して活動することができました。買い物、料理、皿洗い掃除などを子どもたちで行い、自分なりに試行錯誤して、がんばっていました。おどろいたのは積極的な子どもたちが多く、「自分がやりたい」「任せて」とがんばっていて、自分も見習わないといけないと思いました。忙しい 2 日間でしたが、多くの大切なことを学びました。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

佐方 6

活動名	佐方市民センター祭り
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとして市民センター祭り(10月15日)にスタッフとして参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方市民センター 経緯：佐方自治会と協議し、決定した参加行事の一つ
年・日時～年・日時	2016年10月15日8時30分～15:30
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	全体の責任者：★石永 人間生活学科と臨床検査学科の学生18名
活動内容	これまで以上に、たくさん来て頂いて助かったとセンターや自治会の方々からお礼の言葉を頂きました。スーパーボールすくい、衣料品再利用販売、ポップコーン・揚げリンゴ・焼き鳥・みたらし団子等の販売ブースのサポートをしていました。とっても大きな戦力になったようです。子ども達に声を掛けたりしながら楽しさを演出していました。
反省・コメント (学生の感想も含めて)	彼らの評判は良く、活気が出て来るのでまた参加して欲しいと要請もありました。 毎年同じであるが、参加した学生諸君の感想をまとめると「たくさんの方々と触れあえ、コミュニケーションを取りながら手伝いができとても楽しかった」ということだった。
添付書類	(有) 無)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方6

活動名	保健指導関連事業：佐方市民センターまつり
目的または趣旨	佐方地区の住民に、SAT システムを使って日常の食事のバランスや適切な量を摂取しているかを、楽しみながら自分の食生活を振り返っていただく。
共催団体名および共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方市民センター 経緯：特定保健指導の一環として、肥満防止に役立てるよう廿日市市から依頼を受けた。
年・日時	平成 28 年 10 月 15 日
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理 1 年 3 名 栄養管理 2 年 2 名
活動内容	食事のフードモデルを使い、前日食べたもの、または食べようと思うものを選んで、SAT の器械の上に乗せるとバランスや栄養量が表示される。それについて簡単なコメントをいい、悪ければ、何を足すとよいかなどのアドバイスを行う。遊び感覚で選び、選んだ食事の栄養量などを知り、自分がバランスよく食べているかなどを学ぶことができる。
反省・コメント	今回は、データをプリントしなかったので、行列ができて早く回転することができたが、結果がほしい人もいたようだった。
添付書類	(有) (無)

地域貢献・地域連携活動報告

佐方8

活動名	リトルシェフ（小学生対象の料理教室）
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとしてリトルシェフにスタッフとして参加。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	主催：佐方市民センター
年・日時～年・日時	2016年11月21日（土）8時20分～13時 佐方市民センターにて下準備、実習、片づけ
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★下地准教授、西庄 栄養調理コース2年生3名 栄養管理コース1年1名 栄養調理コース1年1名
活動内容	市民センターにて材料の計量、下準備を行ない、事前に制作したパワーポイントを使用して当日使用する食材の簡単なクイズ等を行なった。下地准教授が簡単に調理の説明をした後、各グループに分かれて実習（総数14名）。1グループに学生が1～2名ずつついた。学生はそれぞれに声かけをしながら小学生に指示を出していた。皆で試食後片づけを行ない、解散とした。
反省・コメント	低学年の参加者が多く、包丁使いなどに不安があったが、学生たちと話ながら楽しく実習でき、けがもなく終了した。活発な小学生が多かったため、和気あいあいと調理ができた。料理は少し難しかったのか焦がすなどのアクシデントも多かったが、学生たちが積極的にフォローし、最終的にはおいしくできた。学生たちは小学生のレベルに合わせた献立を作成することの大切さを学んだ。
添付書類	③ 無）



地域貢献・地域連携活動報告

佐方9

活動名	佐方子ども餅つき大会
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 昨年に引き続き本行事に参加
年・日時～年・日時	11月23日 8:30-13:30
活動拠点	佐方八幡神社境内
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	責任者：★石永正隆 人間生活学科1年2名 食物栄養学科及び臨床検査学科の学生の場合、このところ実習やイベントが多く、学生は疲れたということであった。
活動内容	例年よりお手伝いの女性陣が少なかったため、学生は餅を丸める作業に終始した。
反省・コメント （学生の感想も含めて）	手伝いの女性陣が少なかったため、とても喜ばれた。 ちょっと寒かったため、その対策も次回から行うようにしたい
添付書類	(有) 無)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方10

活動名	佐方とんど祭
目的または趣旨	地域連携：佐方自治会行事への参加の一つとしてとんど祭りへボランティアとして参加
共催団体名および共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：継続
年・日時～年・日時	2017年1月14日12時30分から16時30分
活動拠点	佐方小学校 校庭
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員★石永教授 学生：人間生活学科2年1名
活動内容	受付など
反省・コメント等	佐方とんど祭(1月9日)が佐方小学校校庭で開催され、全学科から1の学生がボランティアとして参加した。 当初5-6名の参加予定だったか、インフルエンザウイルスに罹患したり、体調が思わしくなかったりと参加出来ない学生が続出し、1名となった。それでも孤軍奮闘してくれ、自治会の方から感謝とお礼がありました。
添付書類	(有 無)

地域貢献・地域連携活動報告

佐方 1 1

活動名	廿日市市民センターまつり
目的または趣旨	廿日市市民センターで開催された「市民センターまつり」へのバザー出店
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市民センター 経緯：お祭りに参加して、盛り上げて欲しい旨要望があり、バザーを出店した。
年・日時	平成 29 年 2 月 11・12 日
活動拠点	廿日市市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★谷口 薫 学生：臨床検査学科 1 年生 10 名 2 年生 2 名
活動内容	はつかいちまちづくり協議会より、年 1 回開催される廿日市市民センターまつりに、バザー名ならびにボランティアの協力要請があった。 11 日(土)にバザーを出店した。ラーメン屋とスーパーボール掬いの 2 店舗を出店した。 ラーメンは当初 1 5 0 食の依頼であったが、好評で追加購入して、2 5 0 食を販売した。 スーパーボール掬いも他に遊戯的なものが無かったので、子供たちが大勢集まり、大反響であった。
反省・コメント	次回に協力出店する場合は、他のバザーの出店状況も考慮して、材料等の準備を進める必要があった。 本学のバザーは、大好評であった。
添付書類	(有) (無)

地域貢献・地域連携活動報告

4-1

活動名	インターンシップ
目的または趣旨	社会人としてのマナーを身につけるとともに、職業観や職業意識を高め、キャリアアップの醸成をはかる。
活動拠点	①地域活動支援センターⅢ型 Cross Road ②きららラポール西御所 ③社会福祉法人庄原さくら学園 庄原もみじ園 ④山口ファイナンシャルグループ もみじ銀行 ⑤FM はつかいち
期日（期間）	①8月22日（月）～8月26日（金）・9月12日（月）～9月16日（金） ②8月17日（水）～8月21日（日） ③8月22日（月）～8月26日（金） ④8月22日（月）～8月26日（金） ⑤9月5日（月）～9月9日（金）
参加者	①人間生活学科人間心理コース学生2名 ②人間生活学科人間心理コース学生1名 ③人間生活学科人間心理コース学生1名 ④人間生活学科人間心理コース学生1名 ⑤人間生活学科オフィス情報コース学生1名
活動内容	受け入れ施設・企業によって内容が違ふ。①～③では、作業の手伝い、利用者との語らいなどが中心。④では、銀行業務に関する講義を受けたり、業務体験ワークを行ったりした。⑤では、レポート同行やミキサー見学があり、最終日には、ラジオ出演もあった。
反省・コメント等	福祉施設への参加者は、利用者とのコミュニケーションのとり方の難しさと大切さを学ぶことができた。銀行への参加者もチーム内のコミュニケーションの大切さを学んだと感想を述べている。また、放送局への参加者も、スタッフ間の信頼関係の重要性を学んでいる。普段の授業では学ぶことができない体験を得たようである。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

4-2

活動名	医療事務職員のスキルアップ勉強会
目的または趣旨	廿日市地域の医療機関の事務職員（医事課員、診療情報管理士等）のスキルアップのための勉強会を、2ヶ月毎に行う。本学教員が会長・事務局を務める「広島診療情報勉強会」と連携して行う
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が会長・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	平成28年4月～平成29年3月
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数） *学生：講演会に参加	教員：★有吉 澄江 学生：専攻科 診療情報管理専攻 学生 人間生活学科医療事務情報コース 学生
活動内容	事例発表、意見交換など、廿日市市内の医療機関事務職員のスキルアップのための勉強会を開催している。
反省・コメント	本勉強会は、21年目を向かえている。毎回、多数の参加者があり、活発な活動を継続している。
添付書類	Info 広島 広島診療情報勉強会 20年のあゆみ

地域貢献・地域連携活動報告

4 - 3

活動名	山陽女子短期大学後期公開講座（共同企画） 病院の役割を知ろう！
目的または趣旨	廿日市市民の皆様に、急性期から慢性期、在宅療養、高齢者サービス付き住宅までを提供している医療機関から、其々の役割について情報提供する。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が会長・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	平成28年11月26日
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 地域の医療機関 廿日市市民	教員：★有吉 澄江 地域の医療機関：J A広島総合病院、廿日市記念病院 大野浦病院 廿日市市民（約40名）
活動内容	山陽女子短期大学：病院の役割を知ろう！ J A広島総合病院：急性期医療をサポート 廿日市記念病院：緩和医療をサポート 大野浦病院：医療と介護をつなぐ入院・在宅をサポート
反省・コメント	地域で安心生活をサポートするための体制について本学から情報提供した。また、急性期から慢性期、在宅までの医療サービス提供をする医療機関から、其々の役割について具体的に説明した。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

4 - 4

活動名	山陽女子短期大学後期公開講座（共同企画） 病院の役割を知ろう！
目的または趣旨	廿日市市民の皆様に、急性期から慢性期、在宅療養、高齢者サービス付き住宅までを提供している医療機関から、其々の役割について情報提供する。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が会長・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	平成28年11月26日
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 地域の医療機関 廿日市市民	教員：★有吉 澄江 地域の医療機関：J A広島総合病院、廿日市記念病院 大野浦病院 廿日市市民（約40名）
活動内容	山陽女子短期大学：病院の役割を知ろう！ J A広島総合病院：急性期医療をサポート 廿日市記念病院：緩和医療をサポート 大野浦病院：医療と介護をつなぐ入院・在宅をサポート
反省・コメント	地域で安心生活をサポートするための体制について本学から情報提供した。また、急性期から慢性期、在宅までの医療サービス提供をする医療機関から、其々の役割について具体的に説明した。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

5-1

活動名	はつかいち環境フェスタ
目的または趣旨	地産地消をすすめるため廿日市市産の食材を使用するなど、環境にやさしい取組みを紹介する企業・団体出展ブースに出店
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	廿日市市環境政策課内はつかいち環境フェスタ実行委員会 昨年度の取組みに引き続き依頼された。
年・日時~年・日時	平成28年10月2日(日) 10:00~15:00
活動拠点	ゆめ桜公園(ゆめタウン廿日市 横)
参加者 教員(責任者には★)	教員:鈴木 理 ★岡崎 尚 学生:食品開発コース1年 3名(重津、中西、小裕)
活動内容	吉和のルバーブと廿日市のブルーベリーの両素材を使ったジャムを試食し、来場者から味・品質・値段などのアンケート調査をした。 また、パネルでルバーブとブルーベリージャムの特徴を紹介した。
反省・コメント等	ひろしま地産地消推進協議会(広島県)の補助金を使った取り組みであり、「地産地消」の情報発信をしていれば、この取り組みの理解が得られた。販売してほしいとの要望もあったので、次年度は地産地消を応援できる商品に育てる工夫も必要である。
添付書類	(有)



地域貢献・地域連携活動報告

5-4

活動名	スギ花粉の飛散状況調査
目的または趣旨	春には毎年スギ花粉が飛散し、アレルギーで悩まれている。 廿日市佐方（本学）地区での飛散状況を調査する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	本学臨床棟屋上に花粉採取器具を設置し、例年より早く2月2日から開始した。
年・日時～年・日時	平成28年2月2日（火）～3月31日（木）
活動拠点	山陽女子短期大学 臨床検査学科
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★林田静枝、 学生 臨床検査学科3年 2名
活動内容	臨床棟屋上に設置されたダーラム型花粉捕集器に設置したワセリンを塗布した採取用スライドを1日1回取り替えて、カルベラ液で染色し1cm ² 中のスギ・ヒノキの花粉数を顕微鏡にて計測する。 2/15 スギ2/cm ² が見られた。 また、H28年度廿日市地区の飛散数の多かったのは3月上旬であった。環境庁の発表では飛散始めは広島県2月25日、山口県2月8日本学（廿日市）2月15日、飛散数広島511/cm ² で山口は1132/cm ² で本学は総数が535/cm ² と飛散始めも飛散数も両県の間であった。
反省・コメント	来年度の計測修了は4月15日ごろが適当であるが、4月に入ると行事が立て込み難しい。
添付書類	(有 ○無)

地域貢献・地域連携活動報告

6-2

活動名	乳がん健診啓発運動：ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン
目的または趣旨	広島県は乳がん患者数が全国でワースト4位なので、早期発見早期治療を目指すため、健診の啓蒙活動を行っている。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：NPO 法人未来 経緯：NPO 法人未来の主宰者が廿日市市出身という事とその主宰者と知り合いだったので、協力を依頼された。
年・日時	平成 28 年 5 月 8 日
活動拠点	Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理 2 年 5 名
活動内容	乳がんに関する展示物やマンモグラフィ、グッズ販売などのコーナーに、カープの試合を見に来た観客を呼び込むために、本学で作ったアレルギー対応のお菓子を配り、勧誘をする。乳がんの健診の受診率が上がるよう、若い人や中年の女性たちに多く声を掛けた。
反省・コメント	前回よりも多く 300 個のお菓子を準備したが、あっという間になくなったので、様子を見ながら配る必要がある。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> 無

地域貢献・地域連携活動報告

6-3

活動名	とうかさん De エイズ検査
目的または趣旨	エイズ予防啓発事業
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	広島県臨床検査技師会
年・日時~年・日時	2016年6月4日(土)
活動拠点	アリスガーデン付近
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	臨床検査学科10名
活動内容	エイズ予防啓発品の配布及び受検促進のPRなど
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ティッシュ配りはなかなか人に受け取ってもらえないことが分かりました。 ・エイズの検査をする人が結構いることが分かり、半面、少しびっくりしました。 ・啓発グッズなどを配布したので感心をもってもらったと思います。 ・雨中の活動となったが、このようなボランティア活動を行った事で自分自身大変勉強になった。
添付書類	(有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>)



地域貢献・地域連携活動報告

6-4

活動名	フードフェスティバルにて焼き菓子の販売
目的または趣旨	広島市中央公園で開催される「ひろしまフードフェスティバル」に、地元の食材を使用した商品を出品し、販売スタッフとして参加。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：J Aグループ広島 経緯：6月に主催者側から依頼があった。8月2日に事前説明会があり、焼き菓子の販売を依頼されたのでスイーツハウスを主体にボランティアを募集した。
年・日時～年・日時	10月20日 9時～17時 制作 10月28日 10時～21時 制作、包装 10月29日 9時～18時 焼き菓子の販売、ドーナツの実演販売 10月30日 9時～18時 焼き菓子の販売、ドーナツの実演販売
活動拠点	広島市中央公園
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★西庄 20日：中尾准教授、津村助教、★西庄 食物栄養学科 1年 39名 28日：中尾准教授、松本助手、★西庄 食物栄養学科 2年生 4名、1年生 3名 29日：岡崎教授、濱本助手、★西庄 食物栄養学科 2年生 3名、1年 2名、臨床検査学科 2年 2名、1年生 7名 30日：鈴木教授、泉助手、★西庄 食物栄養学科 2年生 2名、1年生 5名、臨床検査学科 1年 2名
活動内容	20日：栗の抹茶カップケーキ、さつま芋のチョコケーキを作成。 28日：りんごキャラメルシフォンケーキ、さつまいもクッキーを制作。ポスターの制作、包装。おからドーナツの計量。 29日：焼き菓子の販売と現地でおからドーナツの実演販売。焼き菓子は早い段階で完売、ドーナツは値段設定が高く売れ行きは悪かった。 30日：前日と同じ内容で販売。焼き菓子は早い段階で完売し、実演販売は17時まで行なった。
反省・コメント	焼き菓子は両日とも早い段階で売り切れたがドーナツの値段設定が悪く、売れ行きが悪かった。今年度は参加学生をボランティアで募集したが、調理になれていない学生が多かったため、いろいろ不便が生じた。食物栄養学科の学生の参加を増やすとともに、事前説明の必要性もあると感じた。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> (無)